

### ⑥多孔質環境（石積み）の整備

中型～大型の石による石積を複数設置し、多孔質環境の整備を行う。  
特に爬虫類や昆虫類等、小動物の生息環境となる事が期待される。

山型石積み      堤型石積み

### ①残留緑地の適正な樹林管理

残留緑地内のコナラ群落や、ヌルデ・アカメガシワ群落はこれまで放置され荒廃していたが、本事業により下草刈りやツル切り等を行い、良好な樹林環境となるよう管理を行い、生態的機能の向上を図る。

### ⑨ヤマザクラ等の列植

ヤマザクラの列植      花木の列植

住宅や公園・歩道等からの景観や、伐採する大径木ヤマザクラの代償に配慮し、切り土法面植栽緑地の南東側角にヤマザクラを列植する。

歩道沿いには在来種の花木を植栽する。

### ⑦散策路の整備

散歩や自然観察等、地域住民等が日常的に自然環境を感じる事ができる様に、散策路を整備する。  
残留緑地内・樹林での散策路の整備に当たっては、現況の自然環境を損なわない整備を行う。

### ⑧ビューポイントの設定

事業区域で最も高い位置にある回復緑地の頂部平坦部分に設定し、ビューポイントを設定し、自然保全区域等が広く見渡せる様にする。

### ②積極的な林相改良・植生改良

残留緑地や回復緑地内では、タケ・ササ類やクズ・ススキ等の生物の多様性に乏しい植生が広い面積を占めており、本事業において林相改良や植生改良を積極的に行い、生態的機能の向上を図る。  
特に回復緑地では、樹林を伴う草地を整備する事で、希少猛禽類の採餌環境となる事が期待される。

### ③ワンドの整備

詳細については、別紙「湿地と水路の計画図」にて記載する。

### ⑤小水系の整備

詳細については、別紙「湿地と水路の計画図」にて記載する。

### ④自然水路の整備

詳細については、別紙「湿地と水路の計画図」にて記載する。

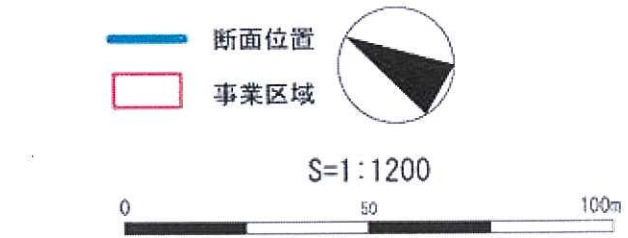
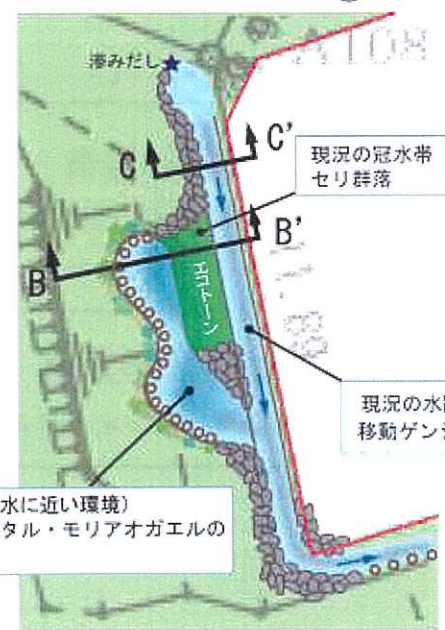


図 3-33 自然保全区域計画図

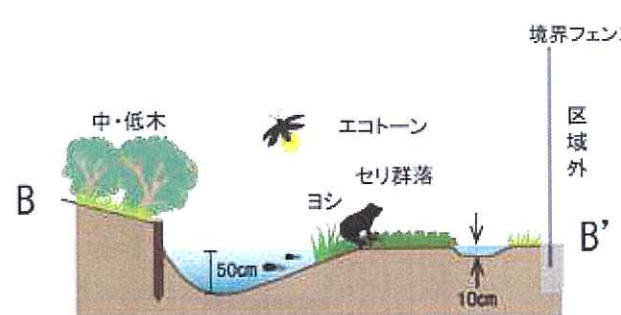


### ③ワンドの整備

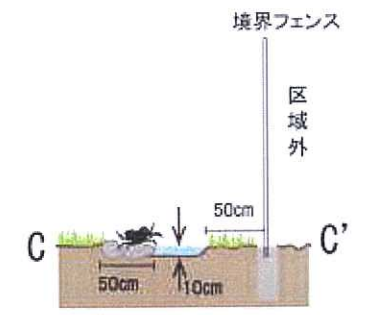


既存の水系を活用し、新たにワンドを整備し、止水を好む動物の生息環境を創出し、水系の生態的機能の向上を図る。特に、ヘイケボタルやモリアオガエルの生息環境となる事が期待される。

ワンド(止水に近い環境)ヘイケボタル・モリアオガエルの生息地



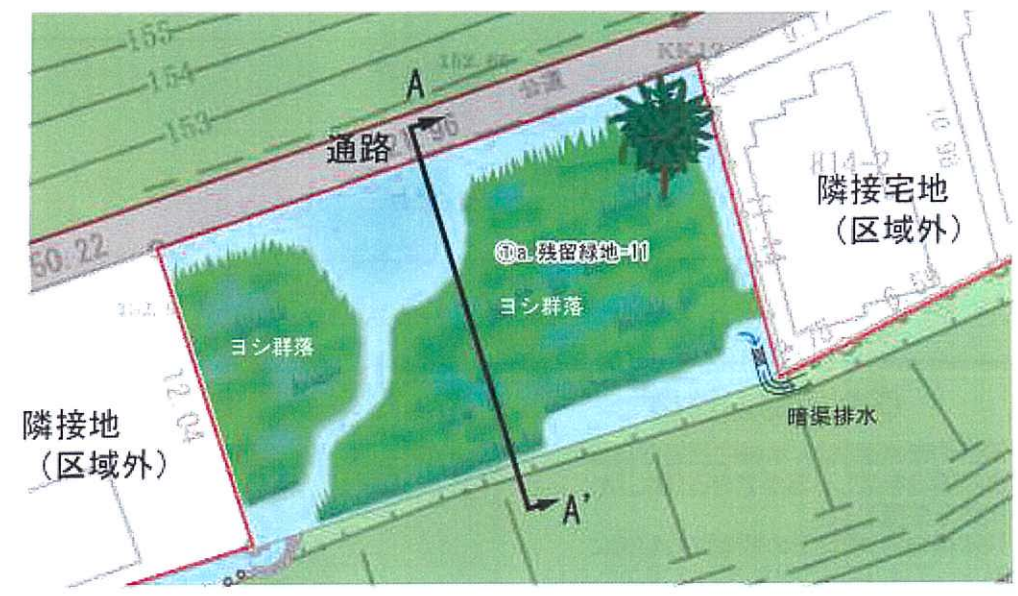
B-B' 断面イメージ



C-C' 断面イメージ

### ⑤小水系の整備

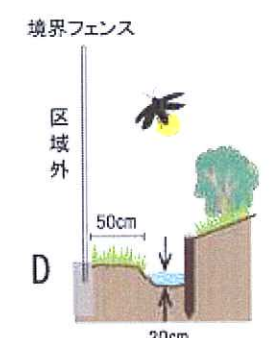
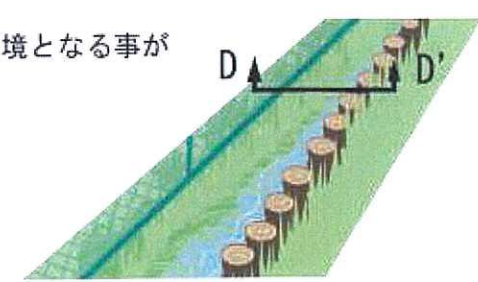
現況のヨシ群落は、ヨシが密生しており、環境が単一化しているため、開放水面となる小水域を整備し、水系の生態的機能の向上を図る。



A-A' 断面イメージ

### ④自然水路の整備

現況は暗渠であった水系(排水路)を開渠にし、自然水路を整備する事で、流水環境を好む動物の生息環境を創出し、水系の生態的機能の向上を図る。特に、ゲンジボタルの生息環境となる事が期待される。



D-D' 断面イメージ

図 3-34 湿地と水路の計画図

## 7. 切土盛土計画

### 1) 造成計画の概要

造成の目的は公園2カ所と集会場を有する185宅地の造成である。

計画地南側の八王子市幹線2級7号線と、計画地北側の八王子市道横山361号線の高低差は約33mである。南側より5m以内で雛壇形状に標高を上げて宅地を整形し、北側道路の高さまで宅地造成を行う計画とした。計画道路は既設公道と接続し4方向に通り返しが可能な計画とした。

南西側は主に切土を行い北側の盛土にその土砂を使用する。切土の高さは最高で8m程度、盛土の高さは最高で6m程度である。尚、本事業における造成法面は最大で4.9mであり、長大法の基準、盛土で9m、切土で10mを超える一体の法面には当てはまらない。

土量の内訳について切土量は86,714 m<sup>3</sup>、盛土量は102,298 m<sup>3</sup>、総土工量は343,314 m<sup>3</sup>である。次項より造成計画平面図・断面図、土量計画平面図・断面図を提示した。

表 3-40 造成面積と土工量

項目	面積 (m <sup>2</sup> )	土量 (m <sup>3</sup> )
切土	18,556.67	86,714.38
盛土	25,135.00	102,298.00
合計	43,691.67	189,012.38
差引土量		15,583.61
土工量	(切土量+盛土量) ÷ 開発区域面積 (86,714.38 m <sup>3</sup> +102,298.00 m <sup>3</sup> ) ÷ 60,845.02 m <sup>2</sup> = 3.106 m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>	

※表 3-36 の通り切土量に対し盛土量が上回っているが、切土 8.6 万 m<sup>3</sup> と排水管や擁壁等の構造物を築造する事から発生する土砂、約 1.5 万 m<sup>3</sup> を合わせ差引の土量が 0 m<sup>3</sup> となる土量バランスで計画した。

### 2) 土工量について

本事業の造成計画における総土工量は表 3-37 単位当たり土工量は表 3-38 に示す。

表 3-41 総土工量

切土量 (m <sup>3</sup> )	+	盛土量 (m <sup>3</sup> )	=	総土工量 (m <sup>3</sup> )
86,714.38	+	102,298.00	=	189,012.38

表 3-42 単位当たり土工量

総土工量 (m <sup>3</sup> )	÷	事業区域面積 (m <sup>2</sup> )	=	単位面積当たり土工量 (m <sup>3</sup> )
86,717.38	÷	102,298.00	=	3.106 < 6

### 3) 丘陵地における適正開発のための指導指針への対応

①計画地東側に並ぶ住宅地に合わせ宅地の配置を行い、西側に植栽緑地や残留緑地を設け丘陵地の景観特性を生かし周辺と調和を図った計画となるようにした。

また計画地には事業者管理の緑地を2カ所、公園を2カ所設け緑化に配慮した。

②単位面積当たりの土工量は「(切土量+盛土量) ÷ 事業区域面積」で算出すると (86,717.39 m<sup>3</sup>+102,298.00 m<sup>3</sup>) ÷ 60,845.02 m<sup>2</sup> = 3.106 m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup> となり、指導基準である 6.0 m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup> を下回る。

### 4) 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域への対応策

事業地内には土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域に指定された急傾斜地と土石流の危険個所が存在する。本事業ではその高低差を以下の図のように、擁壁や地下車庫によって5m以内の雛壇形状で造成し、事業地全体として緩やかな勾配となる。また造成によって区域の指定も解除となる予定である。

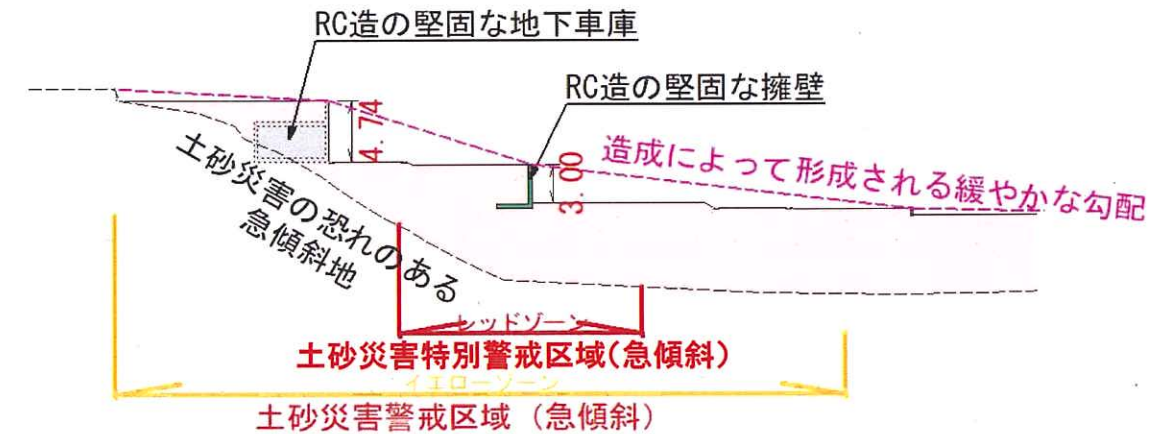
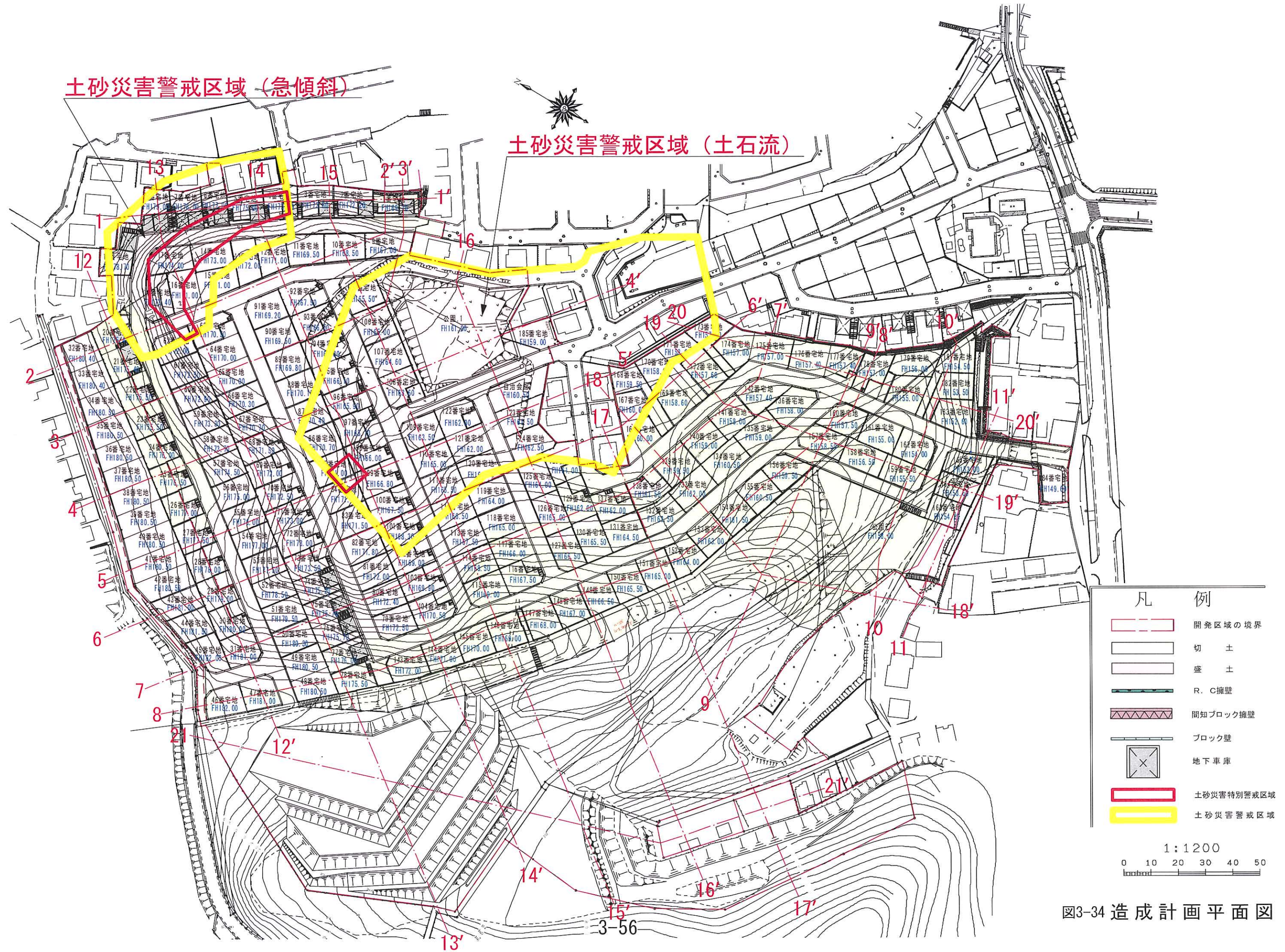


図 3-35 13-13' 断面より雛壇形状の造成

土砂災害警戒区域（急傾斜）

土砂災害警戒区域（土石流）



- 凡 例
- 開発区域の境界
  - 切 土
  - 盛 土
  - R. C擁壁
  - 間知ブロック擁壁
  - ブロック壁
  - 地下車庫
  - 土砂災害特別警戒区域
  - 土砂災害警戒区域

1:1200  
0 10 20 30 40 50

図3-34 造成計画平面図



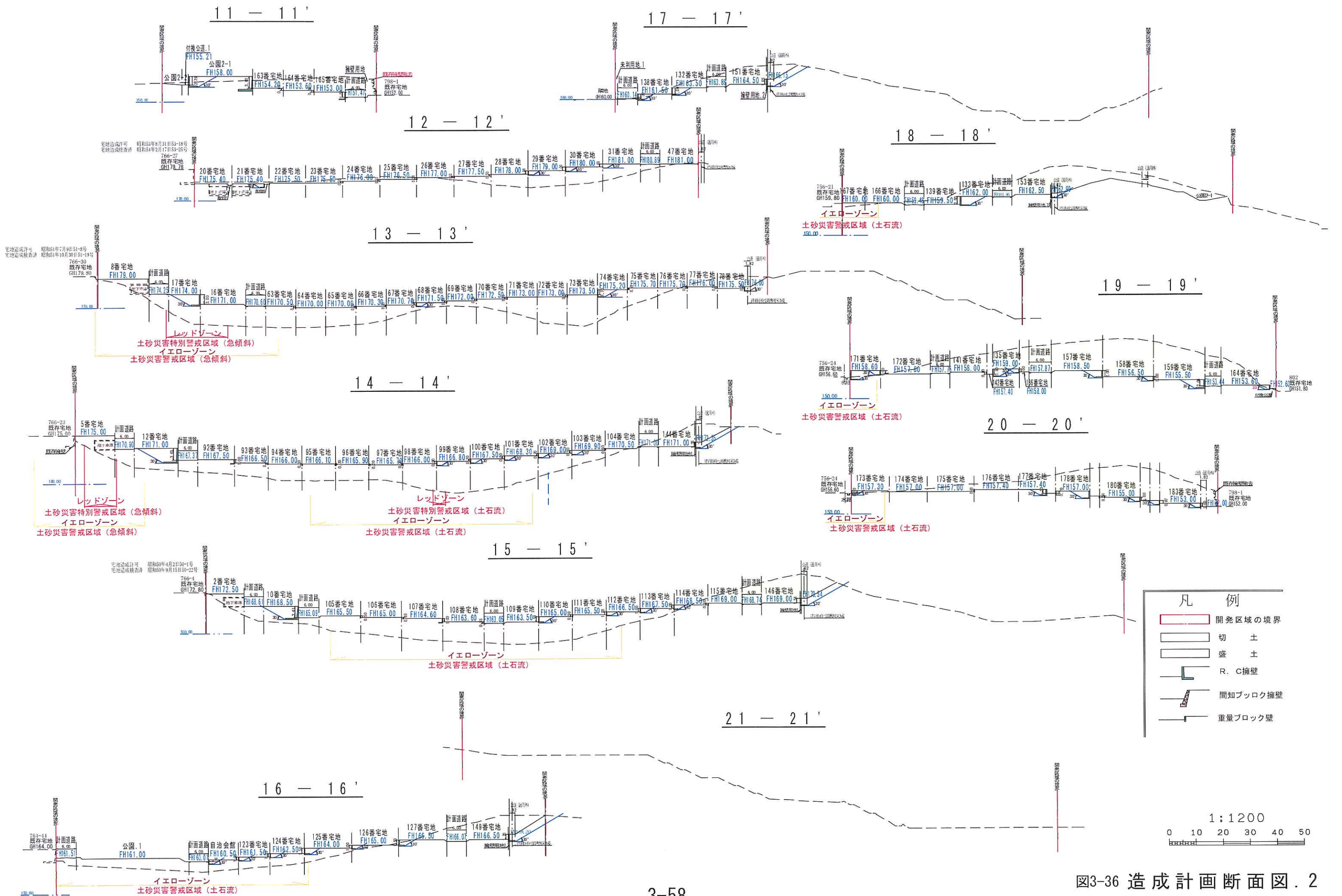
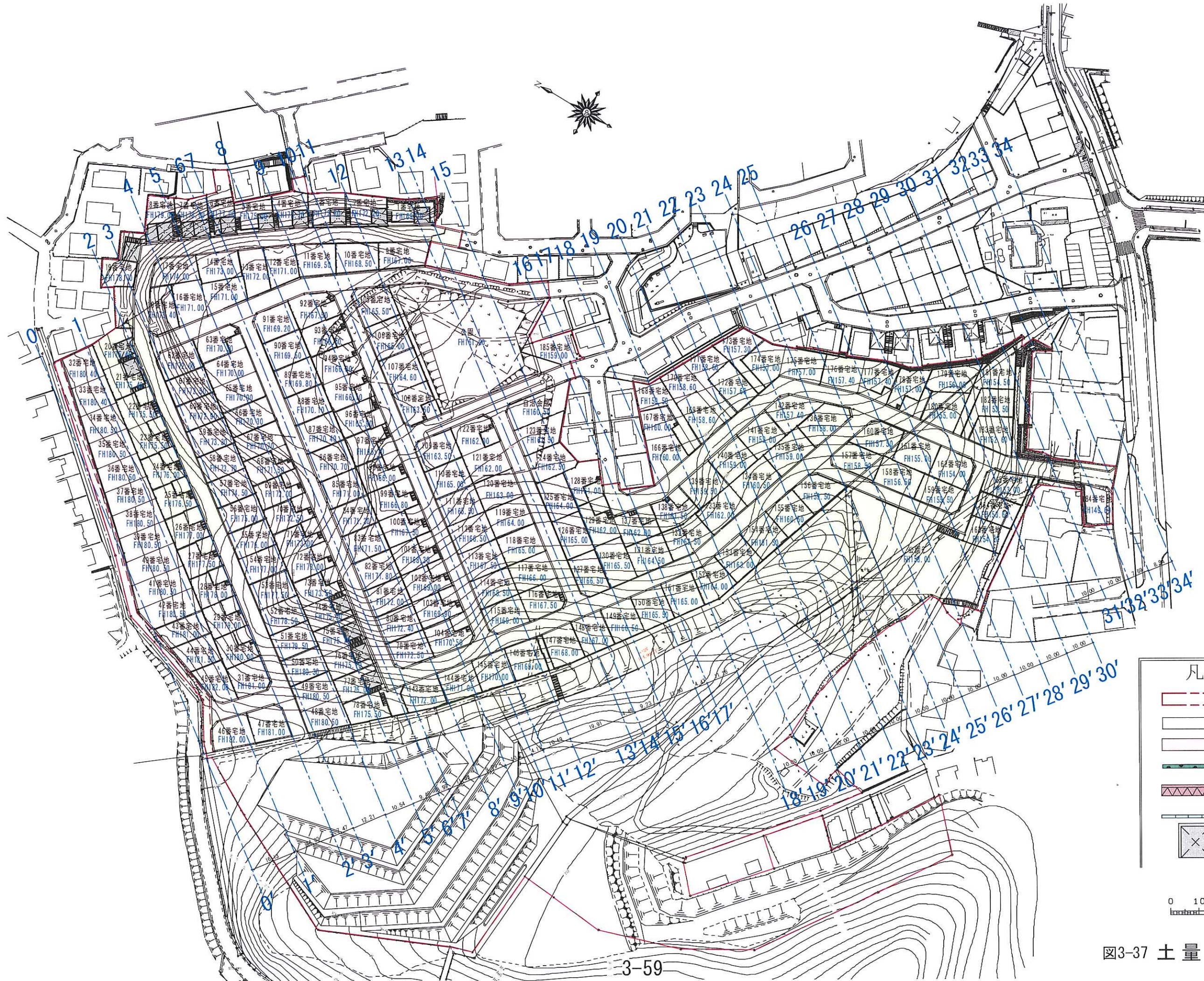


図3-36 造成計画断面図. 2



- 凡 例
- 開発区域の境界
  - 切 土
  - 盛 土
  - R. C擁壁
  - 間知ブロック擁壁
  - ブロック壁
  - X 地下車庫

1 : 1200  
 0 10 20 30 40 50

図3-37 土量計画平面図

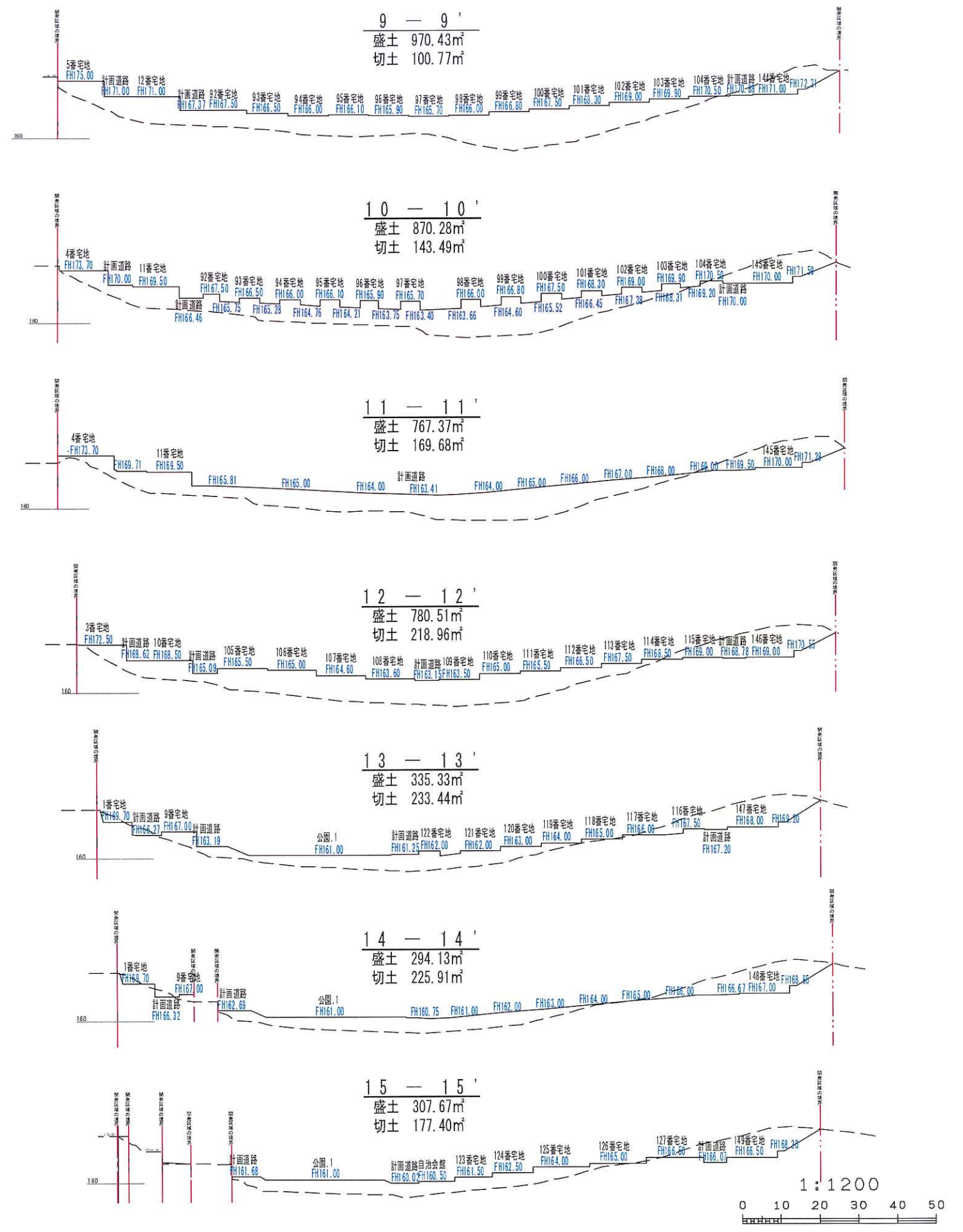
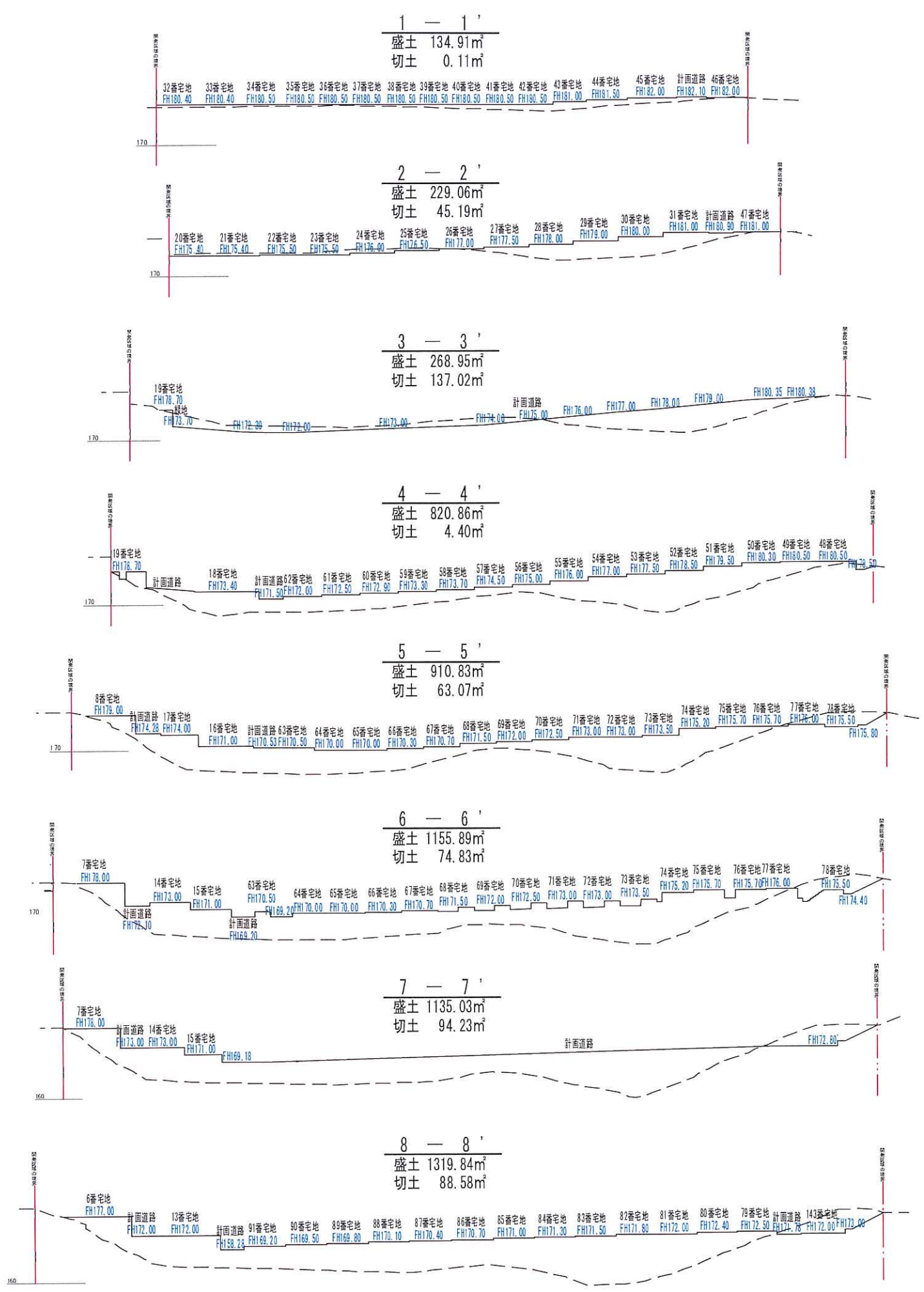
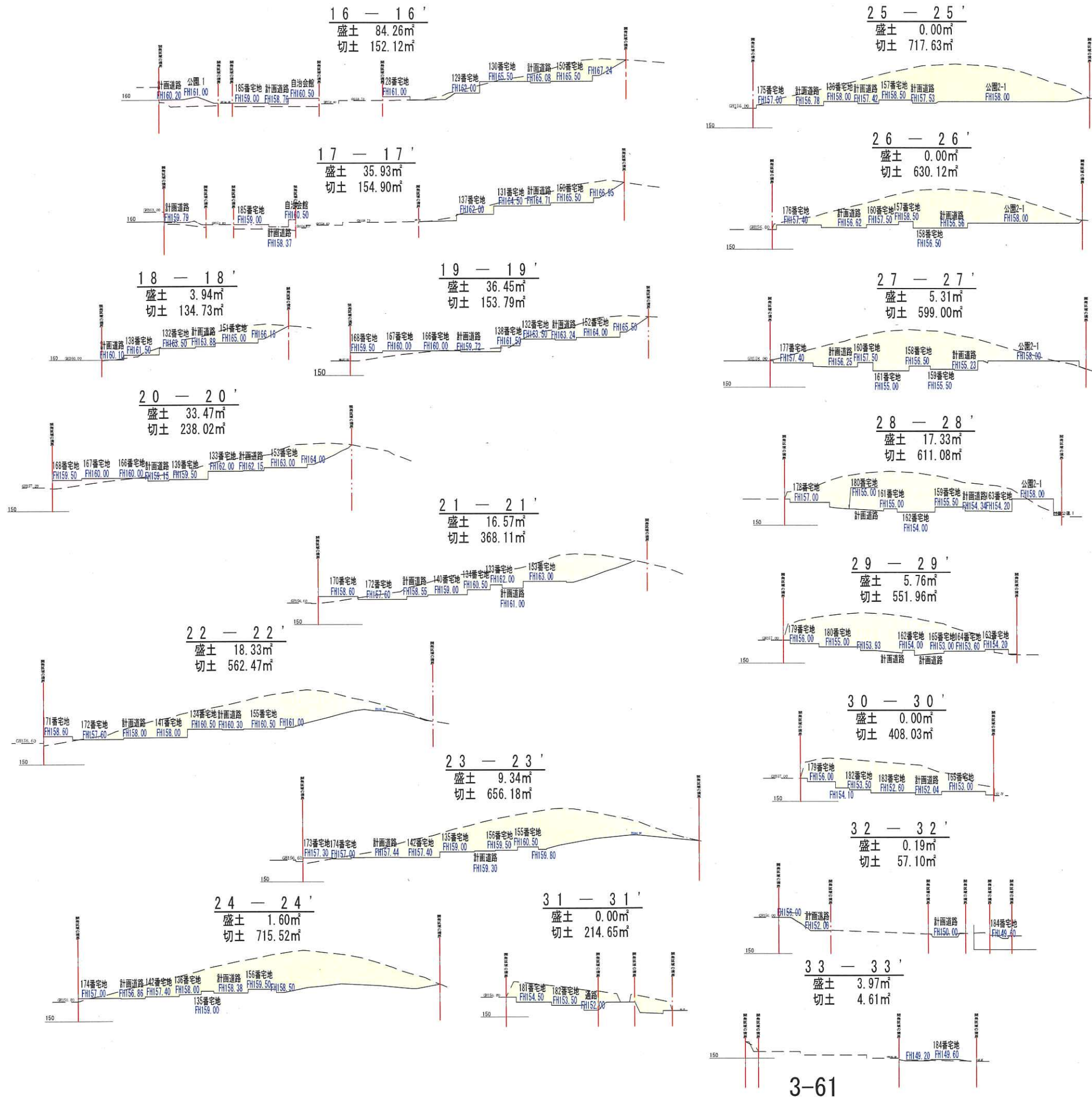


图3-38 土量計画断面图1





番号	切土面積	盛土面積	平均切土面積	平均盛土面積	距離	切土量	盛土量	
0	0.00	0.00	0.055	67.455	16.13	0.8872	1088.0492	
1	0.11	134.91	22.650	181.985	14.92	337.9380	2715.2162	
2	45.19	229.06	91.105	249.005	7.47	680.5544	1860.0674	
3	137.02	268.95	70.710	544.905	12.21	863.3691	6653.2901	
4	4.40	820.86	33.735	865.845	10.54	355.5669	9126.0063	
5	63.07	910.83	68.950	1033.360	9.46	652.2670	9775.5856	
6	74.83	1155.89	84.530	1145.460	3.99	337.2747	4570.3854	
7	94.23	1135.03	91.405	1227.435	11.57	1057.5559	14201.4230	
8	88.58	1319.84	94.675	1145.135	9.99	945.8033	11439.8987	
9	100.77	970.43	122.130	920.355	10.11	1234.7343	9304.7891	
10	143.49	870.28	156.585	818.825	4.19	656.0912	3430.8768	
11	169.68	767.37	194.320	773.940	10.49	2038.4168	8118.6306	
12	218.96	780.51	226.200	557.920	19.91	4503.6420	11108.1872	
13	233.44	335.33	229.675	314.730	4.49	1031.2408	1413.1377	
14	225.91	294.13	201.655	300.900	9.23	1861.2757	2777.3070	
15	177.40	307.67	164.760	195.965	13.90	2290.1640	2723.9135	
16	152.12	84.26	153.510	60.095	4.47	686.1897	268.6247	
17	154.90	35.93	144.815	19.935	11.26	1630.6169	224.4681	
18	134.73	3.94	144.260	20.195	10.00	1442.6000	201.9500	
19	153.79	36.45	195.905	34.960	10.00	1959.0500	349.6000	
20	238.02	33.47	303.065	25.020	10.00	3030.6500	250.2000	
21	368.11	16.57	465.290	17.450	10.00	4652.9000	174.5000	
22	562.47	18.33	609.325	13.835	10.00	6093.2500	138.3500	
23	656.18	9.34	685.850	5.470	10.00	6858.5000	54.7000	
24	715.52	1.60	716.575	0.800	10.00	7165.7500	8.0000	
25	717.63	0.00	673.875	0.000	10.00	6738.7500	0.0000	
26	630.12	0.00	614.560	2.655	10.00	6145.6000	26.5500	
27	599.00	5.31	605.040	11.320	10.00	6050.4000	113.2000	
28	611.08	17.33	581.520	11.547	10.00	5815.2000	115.4650	
29	551.96	5.76	479.995	2.882	10.00	4799.9500	28.8150	
30	408.03	0.00	311.340	0.000	10.00	3113.4000	0.0000	
31	214.65	0.00	135.875	0.095	10.00	1358.7500	0.9500	
32	57.10	0.19	30.855	2.080	10.00	308.5500	20.8000	
33	4.61	3.97	2.305	1.985	7.59	17.4950	15.0662	
34	0.00	0.00	0.000	0.000	8.94	0.0000	0.0000	
							86714.3825	102298.0024
							差引土量	15583.6199

※切土量に対し盛土量が上回っているが、切土8.6万㎡と排水管や擁壁等の構造物を築造する事から発生する土砂、約1.5万㎡を合わせ差引の土量が0㎡となる土量バランスで計画した。

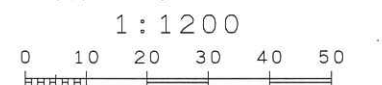


図3-41 土量計画断面図2